

令和5年度 赤穂市立坂越小学校評価報告書

こころ豊かに 夢や目標をもって たくましく生き抜く児童の育成

1. 学校教育目標

2. 本年度の学校経営の重点目標

- 基礎基本の定着、対話を通じて学び合う授業による確かな学力を育成する。
- 人権を大切に作る学校づくりを推進する。
- 心の教育を全教職員並びに関係機関と連携しながら進める。
- 児童・保護者の思いに寄り添い、特別支援教育、児童支援を充実させる。
- キャリア教育を充実させ、目標に向かって生きる意欲や態度を育てる。
- 家庭と連携して基本的習慣の形成を行い、褒めて育てる教育を推進する。
- 新しい生活様式の中で健康・体力の増進を図り学校安全体制の整備も行う。
- 児童・保護者・地域と共に築く、開かれた学校づくりを行う。
- 全教職員の共通理解のもと、組織的に教育活動を進める。
- 学校業務の工夫・改善を図り、子どもと向き合う時間を確保する。

3. 自己評価結果

(A～D) (A:達成した80%以上 B:ほぼ達成した 60～80% C:あまり達成できなかった40～60% D:達成できなかった40%以下)

観点(重点目標)	評価項目(学校園・教師の取組内容)【別紙参照】 ○評価指標及び目標値(期待される姿)	評価資料	達成状況	改善の方策
(1) 確かな学力と学びの保障	◇各学年の発達段階に応じた学習規律を定着させ、学習形態や、個に応じた指導方法を工夫し、基礎基本の定着に努めている。(複数指導・さこしの日の補充学習・朝学習の活用) ○児童が、読み書き計算などの基礎的な学習について8割以上の習得ができています。(児ア・保ア)→(評価テスト等)	職員アンケート 児童・保護者アンケート	B	・朝学習の時間に基礎の時間(復習タイム)を継続し、学習の習熟を図る。 ・ICT端末を使うよさを整理し、活用するとともに、端末を用いた学習内容を適切に評価していくための研修を随時行う。 ・全国学力学習状況調査の結果を全職員で分析し、今後必要な力を各学年でどのように身に付けさせていくか検討し、実践する。 (本年度は「書く力」を伸ばすための取組について国語科の指導系統表から各学年で身に付けさせたい力と指導法について考え、実践に努めた。)
	◇児童一人一人が自分の考えをもち、友達との対話を通して学び合う中で、考えをさらに深められるような授業づくりに努めている。	職員・児童アンケート		
	◇児童が自分の考えをもち、対話により考えを深めている。	職員アンケート 職員研修		
	◇個別最適な学びと協働的な学びを実現するツールとしてのICT活用を推進し、指導と評価の一体化を図り授業改善につなげている。 ○タブレット端末等のICT機器を、児童の学習内容理解や友達との考えの比較等に適切に役立て、次の授業改善につなげている。	職員アンケート 職員研修		
(2) 人権を大切に作る学校づくり	◇人権が尊重される仲間づくり、学び合いのある授業づくりに努めている。 ○児童が、間違いや失敗に対して否定的な反応をせず、自然に対話し、援助し答えている。	職員アンケート 児童アンケート	A	・スキルタイム(対話)の時間を活用し、児童の関わり合いの質を高める。 ・新しい人権課題(LGBTQや情報モラル等)に関する校内研修を積み重ね、系統的に指導を行う。 ・あすなる参観日(人権参観日)の機会を利用し、保護者への啓発を図る。 ・自己有用感を高めることのできる学級づくりや、人権に視点を置いた関わり合いのよさを、掲示物などで可視化していく。
	◇人権が尊重される仲間づくり、学び合いのある授業づくりに努めている。 ○児童が進んで挨拶をし、委員会活動やスマイル班活動等では学年を越えて友達を大切にしている。	職員・保護者アンケート		
	◇日々の教育活動やたんぼ学級の計画・実施等を通して様々な人権問題に関心をもてるように努めている。 ○日々の教育活動の中で、人権に視点を置いた促しや注意喚起、また児童が様々な人権問題に関心をもって、学ぶことができるよう、教職員の共通理解が図られている。	職員アンケート 職員研修		
	◇児童の内面に根ざした道徳性を養うために道徳の教材や授業づくりの研究に努めている。 ○児童が進んで挨拶をし、委員会活動やスマイル班活動等では学年を越えて友達を大切にしている。	職員アンケート 児童アンケート		
(3) 心の教育の充実	◇生活指導の中で、禁止ではなく励行をうながし、児童の自己指導能力を高めている。 ○生活指導委員会を中心とした取組の中で、児童の自己指導能力を育成し、児童による学校生活のルールづくりをすることで気持ち良く学校生活が過ごせている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート	B	・引き続き、道徳科の授業の充実を図る。 ・毎月の生徒指導委員会で職員間で生徒指導上の課題を共通理解し、学校生活のルールづくりの取組において児童の自己指導能力の育成を図っていく。 ・増加する児童間トラブルに対して、学年・学級だけの問題として抱えるのではなく、学校全体で組織的に対応していく。
	◇いじめのない安心できる学校生活の推進に努めている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート		
	◇いじめ・不登校の早期発見や早期対応のために、職員間で課題を共通し、必要に応じて外部機関とも連携し、すべての児童の心の居場所を保障している。	職員アンケート 児童・保護者アンケート		
	◇個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成し、支援を要する児童や保護者への理解や寄り添いに努め、周囲への啓発と共通理解を図っている。 ○合理的配慮の観点を踏まえた指導と周囲の温かい協力により、支援を必要とする児童が設定した目標に向かって生き生きと学校生活を送れている。	職員アンケート 懇談及び面談の振り返り		
(4) 特別支援教育の充実	◇すべての児童が集中して、学習に取り組むことのできる環境づくりや、視覚的に分かりやすい支援を心がけている。 ○日々の授業や生活の中で、掲示物の精選を行い、必要な情報の視覚支援などを取り入れて、授業のユニバーサルデザイン化を図っている。	職員アンケート 職員研修	B	・児童、保護者への啓発を積極的にうながし、人権教育の一環として取り組む。 ・支援の必要な児童に適切な支援ができるように、全職員で共通理解する場を増やし、関係機関との連携を強化する。

総合的な学校園関係者評価

- ・コロナ禍での制限があげ、学校活動や行事が戻り喜ばしい反面、児童や教職員にかかる負担も大きかったのではないと思われる。今年度の反省を是非次年度に生かしてほしい。
- ・子ども達のために何が出来るかを、1番に考えて、「親と子」、「家庭と学校」、「学校と地域」、「保護者同士」の連携を密にしていきたい。
- ・児童アンケート及び保護者アンケート集計が円グラフ記載で見やすかった。問題点の解決につながると思う。
- ・地域に住む自分たちが何かできることがあれば、ぜひ協力したい。自治会でも議題としてあげることが可能であるので、何かあればぜひ相談してほしい。
- ・最近、公園で遊ぶ子ども達が少なく感じている。また、子ども会などもなくなっていきつつある中、スマイル班などの交流はともよいと思う。
- ・「さこしの日」の補充学習など、基礎知識の習得に有意義な取組だと思う。
- ・通信にて学校行事が楽しく実施されている様子がうかがえる。今後も坂越地域の特性を生かしてよりよい学習への取組を期待している。

学校関係者評価

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない×適切でない

自己評価は適切か	改善方法は適切か	課題と来年度具体的改善方法
○	◎	・「書く力」を伸ばすために、日記指導を充実させ、家庭との連携を図るのはどうか。(親子日記など)通信等で紹介してもらいと、書く意欲が増している。低学年は特に親が寄り添うことで書き方も上達すると思う。 ・ICTの利用によるメリットも理解できるが、使用法や習熟度の差が出る為、そのケアに時間を要する可能性がある。
◎	◎	・多くの児童が学校が楽しいと言っているのは、どの子も学校に居場所があるということである。今後も、一人ひとりが認められる環境づくりを継続してほしい。何らかの事情があり、「楽しい」と回答できなかった児童にも目をかけてくれていることもよく分かった。 ・対話ができることが素晴らしいと思う。今後も対話を取り入れた指導を継続してほしい。
○	○	・児童がみんな優しい心をもっているのは、日々の道徳授業の充実の成果だと思うので、今後も継続してほしい。 ・人権道徳参観日(あすなる参観)で親をまきこんで考える参観日があるのはとても良いことだと思う。地域への紹介などこれからも実施方法を工夫して行ってほしい。 ・生徒指導における問題点など、地域のサポートが必要なときは、ぜひ相談してほしい。
○	○	・特別な支援を必要とする児童の増加に対して、教職員の数が限られており、大変負担ではないかと思う。ぜひ、市や県に要望して支援にあたる教員数の増加を図ってほしい。 ・どの児童も生き生きと楽しく学校生活を送れるように行き届いた支援や見守りを継続してほしい。そのために、児童個人の支援目標を明確にし、家庭との情報交換を密にしてほしい。

(5) キャリア教育の充実	◇「地域の本物」に出会い生き方を学ぶ体験、係や委員会、縦割り活動等で自分の役割を果たす体験等、キャリアを見据えた体験活動の充実を図っている。	職員アンケート 保護者アンケート	B	・行事ごとにキャリアパスポートを利用するだけでなく、1年や各学期を通した子ども達の目標やその振り返りを随時促していく工夫を行う。	○	○	・地域の本物体験を通して、地域の産業や仕事に目を向けたり、自然や歴史・伝統を守る取組について発信したりすることを通して子ども達が具体的な未来を描けるような学習活動が展開できるとよい。
	◇「地域の本物」に出会い生き方を学ぶ体験、係や委員会、縦割り活動等で自分の役割を果たす体験等、キャリアを見据えた体験活動の充実を図っている。	職員アンケート 保護者アンケート					
(6) 家庭との連携	◇児童の学習や読書の習慣、「早寝・早起き・朝ごはん運動」や健康管理、挨拶の励行などの基本的生活習慣の定着を目指し、家庭と連携して、教育活動を行っている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート	B	・次年度も、年度当初に学級経営説明会を行い、保護者に学級経営方針をより明確に伝えられるようにする。 ・個別懇談時や必要に応じて面談や連絡を取り合うことで、児童の様子がより伝わる形で家庭との連携を図る。	◎	◎	・登下校の様子の把握は教師や保護者だけでは難しいので、地域住民の見守り活動でサポートしていく。 ・朝の挨拶は家庭で挨拶をする習慣がしっかりあれば、おのずとできると思うので、保護者にも協力を呼びかける。 ・参観日などの行事が増え、学校での様子が伝わりやすくなった。これからも負担にならない程度で通信やホームページ等に写真で行事や日常の様子等の写真を載せてもらうなど、児童の近況を地域にも知らせしてほしい。
	◇保健や食育、学習や読書、挨拶習慣をつけるための情報発信、講演会への招待等により家庭の意識を高め、よりよい生活習慣の定着を図られている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート					
(7) 健康と安全を守る取組の充実	◇毎月の生活目標をもとに、新しい生活様式を踏まえ、安全に留意しながら生活指導を行っている。	職員アンケート 保護者アンケート	A	・引き続き児童がめあてをもって体力づくりや生活目標の達成に取り組めるように、練習カードを用いた体力づくりの推進や各月の生活目標の設定と振り返りを丁寧に行う。 ・危機管理マニュアルを確認し、日々の安全確認を継続する。	○	○	・急な荒天時や児童の健康状況による学年、学級閉鎖等の判断は難しいと思うが、事前にメールで保護者に心づもりを予告してもらえるのは予定が組みやすく助かる。 ・SNSのトラブルが多いと聞き、社会ニュースでも問題となっていることから、SNSに対するさまざまな事例研修や学習を通して、児童だけでなく、保護者・地域もまきこんで危険感受性の向上を図る必要があると感じた。
	◇児童が毎月の生活目標を意識して、学校生活を送り、終わりの会や月末の振り返りの際に8割以上の達成率を実感することができる。	職員アンケート 児童・保護者アンケート					
	◇児童の体力向上のため、体育や学校行事、特別活動や学級の全員遊び等、工夫して教育活動を行っている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート					
	◇児童が体力の向上を目指して、マラソンやなわとび、器械運動の練習を進んで行ったり、休み時間に元気いっぱい外で遊んだりしている。	職員アンケート 保護者アンケート					
(8) 信頼される開かれた学校づくり	◇学校だよりや学校HP、参観日オープンスクール等を通じ地域への情報発信に努めている。	職員アンケート 保護者アンケート	B	・オープンスクールや生活科及び総合学習の地域での活動を必要に応じて進化させ、坂越小の特色ある学校づくりを進めていく。 ・学校だより、学校ホームページ等で学校の教育活動を広く知ってもらえるように、定期的な更新の頻度をあげるように心がけ、地域へ学校の取組を発信する。	○	◎	・児童が主体の活動(あいさつや資源ゴミの回収など)が保護者や地域の方の協力したいという思いをうながしているため、HPの作成に児童も関わるなど、子どもからの発信ができると、より地域に開かれていくのではないかと。 ・コロナが開けて学校行事が円滑に実施されて、開かれた学校運営がなされていた。 ・坂越のよさはもちろんのこと、赤穂市のよさを知る地域学習を多く取り入れて欲しい。 ・これからも地域での体験活動を坂越小の特色ある学校づくりとして進めていってほしい。
	◇学校の教育活動が保護者や地域に広く紹介されている。	職員アンケート					
	◇地域での自然、文化、歴史、人、もの、ことと関わる体験や学びを大切に、地と連携し、教育活動を行っている。	職員アンケート					
	◇生活科や総合学習の中で、地域について知る学習や郷土のよさを生かした体験活動及びゲストティーチャーによる指導により、ふるさと意識の醸成が行われている。	職員アンケート 職員研修					
(9) 組織としての学校運営	◇学校教育目標の具現化をめざし、必要な報告・連絡・相談を適切に行い他の職員と協働して組織的に教育活動を行っている。	職員アンケート 保護者アンケート	A	・職員集会や会議の場で、各状況を報告し合うとともに、伝達事項を校務パソコンに随時記録保存することで全職員が共通理解する。また、全職員で全校児童に関わる体制づくりを強化していく。 ・校内研修の機会を利用して授業の質を高めていく。また、児童がめあて及び学習規律や身に付けさせたい話形などを日常的に確認し、活用できるように掲示する。	◎	◎	・教職員の働き方の多様化も進む中で、デジタルにおける共有化が進んでいることは、望ましいことである。これからも、児童理解のために進めてほしい。
	◇職員集会や会議の場で、各状況を報告し合い、職員が指示事項を共通理解し、全教職員で全児童に関わる体制づくりがなされている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート					
	◇児童の学びに寄り添う授業研究や教職員の資質向上や専門性を高めるための研修を行っている。	職員アンケート					
(10) 子どもと向き合う時間の確保	◇校務の精選、定時退勤日の励行による勤務時間の適正化や教育課程の工夫などによって、児童に向き合える時間を確保するよう努めている。	職員アンケート	C	・学期に1回、業務改善の会議を開き各職員の意見を出し合う。 ・3学期の業務改善委員会で、次年度の行事や教育課程を編成する際に取り入れられそうな改善のアイデアを文科省の「働き方改革事例集」や県の教育委員会発行の業務改善のアイデア集から選んで提案し、実践していく。 ・学校だより、HP等でも定時退勤日を周知し協力を呼びかける。	○	○	・多忙な中で、時間をどう確保するかが課題であるが、大切なことであるので今後もお願いしたい。 ・大変だと思うが、継続して子ども達と向き合ってもらいたい。 ・改善点が多いので、行事ごとなどに効率よく時短できるような作業案について話し合いが必要。
	◇定時退勤日の完全実施により、ワークライフバランスを心がけ心身のケアに努めている。						